

内閣総理大臣臨時代理 国務大臣 緒方竹虎殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

原子力の研究・開発・利用に関する措置について（申入）

わが国で、原子力の研究およびその開発、利用をはじめるとについては、政府において、少なくとも次の諸条件を保障するための措置をとられたく、ここに本会議第18回総会の議により申し入れます。

1. 原子力の研究・開発・利用は、あくまで平和目的に限定し、その軍事的利用に導くおそれあるものの介入は、絶対にこれを排除すること。
2. 原子力の研究・開発・利用は、もつばら国民の福祉の増進、わが国の経済自立への寄与を目的とすること。
3. 原子力の研究・開発・利用およびその成果に関する重要な事項は、すべて国民がこれを知ることのできるように、公開されること。
4. 原子力の研究・開発・利用は、あくまで民主的な運営のもとに自主的に行われ、安易な外国への依存は、これを避けること。
5. 原子力の研究・開発・利用に関する機関の要員については、日本国憲法によつて保障された基本的人権を、とくに十分尊重すること。
6. 原子力の研究・開発・利用については、それにとまらぬ放射線による障害に対する対策、特にその予防のために、予め萬全の措置を講ずること。
7. 核分裂性物質または核分裂性物質の原料となる物質は、国民の利益のために、厳重に管理されるべきこと。

内閣総理大臣臨時代理 国務大臣 緒方竹虎殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

屎尿処理対策の樹立について（要望）

わが国における屎尿の衛生的処理は、公衆衛生の向上、増進のためにも、また、今後われわれが文化的な世界人として、共存共栄的な生活を営むためにも、きわめて重要な問題であることは改めていうまでもないところでありますが、従来その施策は甚だ消極的で、今日までその成果に遺憾な点が少なくないように考えられます。

ついては、政府において屎尿処理対策審議会（仮称）を政府部内に設けて、国の方針として全国的に改善方策を樹立させるよう、ここに本会議第18回総会の議により、要望します。

追つて、この屎尿処理対策審議会（仮称）においては、下記の諸事項について至急審議の必要があると考えますので御参考までに申し添えます。

記

- (イ) 一般的に現状打開、改善方策を検討すること。
- (ロ) 大、中、小都市、農山漁村、沿岸、内陸等による立地条件、経済条件、産業条件を勘案して、合

理的な対策をたてること。

- (イ) 従来の各種処理方法の調査研究の総合と、それらの長短について、広い視野からの比較検討をすること。
- (ロ) 新考案の研究を奨励すること。
- (ハ) 尿尿処理に関する国立研究所を、差し詰め関東地区と近畿地区の2ヶ所に設けること。
- (ニ) 全国を適当な地区に分ち、各地区において適当な組織を作り、各々調査研究並びに対策立案を行うこと。
- (ホ) 前条の実現に必須な予算措置。

3-11

庶発第17号 昭和30年1月11日

内閣総理大臣 鳩山一郎 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

国立放射線基礎医学研究所の設置について（申入）

わが国が、広島、長崎において原子爆弾を投下された結果、人命その他にばく大な被害を受け、また最近においてはビキニ環礁で原子爆弾の実験が行われ、多くの問題を提起するにいたり、シベリヤにおいても同種の実験が行われた模様である。

また、放射線が医学上に応用せられる場合、集団検診の場合および将来わが国において原子力の平和的利用が実現する場合にも、放射線による障害を防止するための研究を行わなければならない。

このように人体に対する放射線の影響は、われわれの日常生活にきわめて密接な関係をもっており、放射線医学についての関心は極めて深いものがあるにもかかわらず、わが国では現在までその基礎的な研究に対する対策は、必ずしも十分ではなかつた。

よつて、このような現下の状況にかんがみ、また将来の要求に応ずるため、放射線基礎医学研究所を早急に設置するよう、ここに本会議第18回総会の議により申し入れます。

（別紙 添付参考書類）

1. 国立放射線基礎医学研究所設立趣意書
 2. 同 上 機 構 案
 3. 同 上 実 施 案
- （省略する）

（別紙1）

国立放射線基礎医学研究所設立趣意書

放射線の人体におよぼす影響、これにともなう障害除去の対策ならびに放射線の医学的応用に関する研究は極めて重要である。

諸外国の例をみると、例えば、ドイツではすでに約30年前からMax Planck Institut für Biophysikにおいて、X線の基礎医学的研究が物理学、生物学、化学、医学の各部門について百数十人の研究員のもとで行われており、また、フンボルト大学医学部附属研究所においても同様な研究が約百名の研究員のもとで行われている。その他フランスではパリーにキューリー研究所、スウェーデンではストックホルムにラジウム研究所があつて、ヨーロッパ各国ではこの方面の研究の歴